

いち早く取り組んだメガソーラーで遊休地活用 自然エネを身近なものにする環境活動も

—— 間宮恒行 神奈川県足柄上郡大井町 町長

長らく持て余していた町有地を、官民の見事なタッグで有効活用に導く好例が、ここにもあった。神奈川県足柄上郡大井町に建設された「エネルギーの地産地消」をテーマに始動したメガソーラー「きらめきの丘おおい」が、自治体主導のソーラー発電所のモデルケースとして注目を集めている。プロジェクト始動のきっかけから今後の展望について訊いた。



今回の取材のために、わざわざ間宮町長はじめ、株式会社古川の古川剛士社長、町の生活環境課の皆さんも、お集まりいただいた。



町の自然エネルギーに対する取り組みは、他ならぬ熱心な町民の活動にも支えられている。今回大井町の取り組みを小誌で紹介してくれたのは、地元で環境活動を続けるヒカルデンケンの南雲氏(右)だった。

震災を機に、大きく転換した遊休地活用プラン

黒岩祐治県知事のリーダーシップのもと、太陽光発電推進に力を入れる神奈川県。県内ですでに多くのメガソーラーが稼働する中、県最西部に位置する足柄上郡大井町山田に建設され、今年3月28日に運転が開始された「きらめきの丘おおい」だ。6・8haの土地に敷き詰められたソーラーパネルは8640枚。一般家庭600世帯分の電気を賄う2・1MWの発電能力を持つという。この計画が発案されたきっかけは、やはり東日本大震災だった。

大井町の町長である間宮恒行氏

は、当時を振り返る。

「そもそも、企業から譲り受けた町有の土地約7haの活用法については、試行錯誤がありました。町民のためのスポーツ施設を作るといった話もあったんですが、傾斜のある土地で、建設に費用がかかり過ぎると。そんな時に東日本大震災が発生、神奈川県では新しい知事が誕生しました。黒岩新知事は、「かながわソーラープロジェクト」を立ち上げ、自然エネルギー導入を積極的に推進していくという方針を示されました。そんな流れの中にメガソーラー誘致の話があり、町としても再生可能エネルギーに取り組みべきだという想いがありましたので、いち早く手を

上げさせていただきました。県に実際に建設可能かどうかを評価していただきましたが、問題なしとのことでしたので、さっそく、町で事業者を探し始めました。」

神奈川県による最初の調査は、平成23年12月と震災の約9ヶ月後。翌年の4月には、早くも設置運営事業者の公募の準備が開始され、プロジェクトはスピーディに展開していった。

「調査の段階では固定買取制度の実施(※注/平成24年7月1日にスタート)も、買取価格もまだ決まっていませんでしたので、もちろんリスクはありました。ただ、6月には買取価格42円という数字が出まし

たから、プレミア価格ということではありましたが、大いなる可能性を感じまして、早速公募を始めたんです。」

結果、事業主体として決定したのは、小田原市の「株式会社古川」。もともと、地元でプロパンガスを中心に、永らくエネルギー事業を展開してきた同社は、震災前から一般家庭用のソーラー発電システムの販売も手がけていたが「震災を機に、大規模ソーラーを、しかも、地元・神奈川県で」展開したいと考えていた(古川剛士社長談)。

建設にあたっては、地域住民や行政への許可手続きなど苦労も多かったというが、「間宮町長のリー



今回メインでお話いただいたメガソーラー「きらめきの丘おおい」。発電所を大きく2ブロックに分け、真ん中に町有用地が確保された。多額の造成費用が掛かったが、メガソーラー建設に併せて町の道路整備計画も進行している。

ダーシップと、町の生活環境課職員皆さんの熱意に大変助けられました(古川社長談)。

そうして、やっと稼働にこぎ着けた今、「これからが正念場」と間宮町長。

「発電するだけでなく、地域の活性化、環境教育も我々に課された使命です。学校の授業や遠足で発電所を訪ねたりしてもらう、というアイデアもあります。自然エネルギーをもっと身近に感じていただいて、一般家庭にも導入しやすい環境を作っていく。そのあたりに力を入れていきたいと思っています。」

現在、大井町では民間企業により県内最大級のメガソーラー「足柄大井ソーラーウェイ」のプロジェクトも進行中。こちらは50MWと、かなり巨大なものになる予定だ。「土地の利用をどうするかというのは、町の重要な課題です。民間会社

や個人は不要な土地を持っていても構わないのですが、行政はそうはいきません。最大限有効に活用しなければ、町民のみならず納税してくれませんからね。エネルギーの「地産地消」が期待できる太陽光発電は、地元にとっても、土地の有効な活用方法と言えるのではないのでしょうか。」

行政主導型自然エネルギーのモデルケースとして、今後も大井町のプロジェクトに注目していきたい。



間宮恒行氏
TSUNEYUKI MAMIYA

1948年(昭和23年)8月17日生まれ。神奈川県足柄上郡大井町出身。大井町長は4期連続当選。座右の銘は「公平無私」。気さくな語り口で、聞くものをどんどん引き込む、地元愛に満ちた町長。役場の若いスタッフをぐいぐいリードして、新しい事にもどんどんチャレンジするパワフルリーダーだ。

自然エネルギーを愉しむ生活マガジン

FQ JAPAN8月号増刊
[ソーラージャーナル]

SOLAR

JOURNAL



定価
500円
2014 SUMMER

SPECIAL INTERVIEW

里山資本主義

—元気な日本を
取り戻す—

藻谷浩介

SOLAR CELEBRITY

マツ・デイモン

あなたの知らない

農業

AGRICULTURE

AtoZ

キーワードで考える新・農的生活

植物工場

半農半X

食料自給率

アクアポニックス

農業ムービー

ドームハウス

ソーラーシェアリング

古代農法

F1種

GM種

…and more